

若年層の就業問題

——フリーターからの離脱——

HS22-0110B 堀井 美也

日本社会は若者を学校から職業へスムーズに移行させることで、若者が大人になる際に直面する様々な困難を回避させることに成功してきた。しかし、いまの日本社会は多くの若者にとって働きやすい社会になっておらず、フリーターなどの非正規雇用にしかならない若者が膨大に増えている。フリーターになる理由として男女共通で多かったのは「自分に合う仕事を見つけるため」ということである。またその一方で、少なくなった正規雇用者として働く若者には厳しい労働条件のもとで心身共に無理をさせられているケースが多く、職場における良好な人間関係が仕事をスムーズに進行していく上で必要不可欠であるとされている。

そこで、本稿では、非正規雇用から正規雇用になるために必要なことを「日常生じる困難や問題の解決策を見つけることができる」能力、職場で長く働き続けるために必要なことを「まわりの人をまとめてひっぱっていくことができる」能力であると仮定し、この2点について分析を行った。

使用したデータは、東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクトが「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査」として実施した「若年パネル調査」と「壮年パネル調査」を統合したものである。分析手法は、カイ二乗検定、二項ロジスティック回帰分析を行い、仮説を検証した。

分析結果としては、日常生じる困難や問題の解決策を見つけることができる人ほど正規雇用者となっており、仕事にも満足している傾向にあることがわかった。また、まわりの人をまとめてひっぱっていくことができる人ほど現在の仕事や事業を継続している傾向にあることがわかった。これらの結果から、“自分に合う仕事”は個人によって判断する基準が違うため、日常の中で「自主的に動く」ことが重要なのではないかと考えられる。そして、職場の人々と円滑にコミュニケーションをとれる能力が仕事を継続していく上で必要であると考えられる。